

ICT 活用基本方針

石垣市 GIGA スクール構想

『 I - プラン 』



・石垣市の「I」 ・ICTの「I」 ・わたしの「I」

・出会い ・学び合い ・つながり合い



令和4年5月
石垣市教育委員会

目次

はじめに	1
1 基本的な考え方	
(1) ICT を活用した目指す姿	2
(2) 目指す授業	3
(3) 目指すカリキュラム・マネジメント	5
2 学びにおける ICT の活用	
(1) ICT を活用した授業改善	6
(2) 家庭学習における ICT 機器の活用について	8
(3) 臨時休業等における ICT を活用したオンライン学習の支援	9
(4) 端末持ち帰り（常時）に向けた取り組み	
3 学校へのサポートについて	9
(1) 教員の校務の効率化	
(2) ICT 活用能力の向上	
(3) 教職員向け Web サイトの開設	
(4) 学校 ICT 支援員の配置	
(5) 1人1台端末の整備とヘルプデスク設置	
4 情報モラル教育について	10
5 スケジュール	11
6 構想イメージ	12
7 その他（資料等）	
(1) ICT 活用促進ルーブリック	13
(2) 情報活用能力	
①基本的なスキル	
②小学校における情報活用能力育成のための各教科等での学習活動	14
③中学校における情報活用能力育成のための各教科等での学習活動	15
④小学校から中学校への接続について	17
おわりに	18

IoT やビッグデータ、AI 等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく Society 5.0 の時代がやってきました。これからは、教育だけでなく世の中の在り方が変わっていきます。

同時に、学校では、鉛筆やノートと同様にタブレット端末などの ICT 機器も文房具として使っていく時代となりました。

各学校においても、これまで蓄積されてきた教育実践をもとに新しい ICT 環境における学びを組み合わせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業が求められます。

石垣市教育委員会においても、すべての児童生徒の情報端末の整備と学校における高速ネットワーク環境の構築を進めてきました。

子ども達が、予測不可能な未来の中で「生きる力」を身につけるためには、ICT を活用した教育実践は不可欠であり、子ども達の学びがより充実したものになるようにしていかなければなりません。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、これからの教育は、学校、家庭・地域、行政との連携がますます必要となります。この基本方針は本市の所管するすべての学校において ICT を活用した教育を確実に進めていくために策定しました。この基本方針を「I-プラン」と称し、方向性と取り組みを共有し、教職員をはじめすべての保護者が子ども達の未来を見据えて、日々の教育活動に取り組んでいくことを確認します。

石垣市教育委員会

***IoT**

Internet of Things の略。あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれを可能とする要素技術の総称。

***ビッグデータ**

様々な形をした様々な性格を持った、様々な種類のデータのこと。データの量、種類、発生頻度・更新進度の3つから構成される。

***AI**

Artificial Intelligence の略。コンピュータで、記憶・推論・判断・学習等、人間の知的機能を代行できるようにモデル化されたソフトウェア・システム。

***Society 5.0**

狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもの。

Ⅰ 基本的な考え方

(1) ICT を活用した教育の目指す姿

令和3年4月に中央教育審議会より示された「令和の日本型教育の構築を目指して」の答申と本県の「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」に基づき、「**自立した学習者の育成**」を目指し取り組んでいきます。

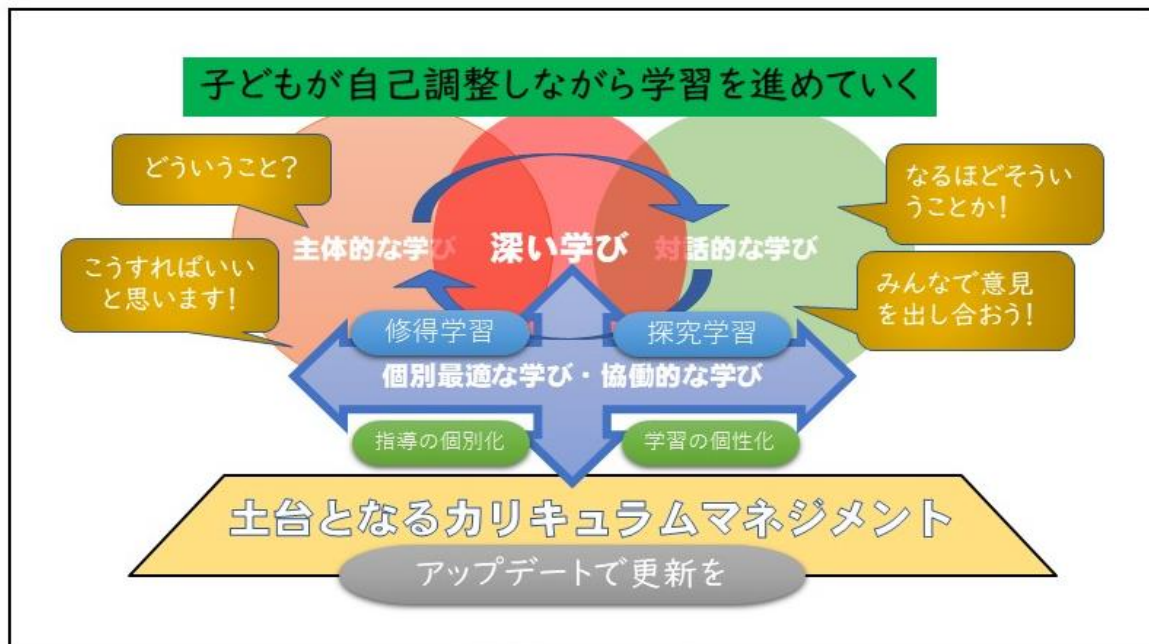
本市においては、ICT を様々な学習場面で効果的に活用し、「**個別最適な学び**」「**協働的な学び**」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、下記の通り「**自分で考え行動する**」自律した児童生徒の育成を「I-プラン」の目標とします。

〈目標〉

「自分で考え 行動する」 自律した児童生徒の育成

～個別最適な学び・協働的な学びを通して～

◆目指す姿のイメージ①



ICT端末を効果的に活用していく

*カリキュラム・マネジメント

各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し

- ①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」

(2) 目指す授業

「**主体的・対話的で深い学び**」を目指し、1人1台端末を効果的に活用し、子ども達の**多様な個性や個人差にきめ細かく**対応し、子ども達の**可能性を引き出す**授業を目指します。

① 個別最適な学び

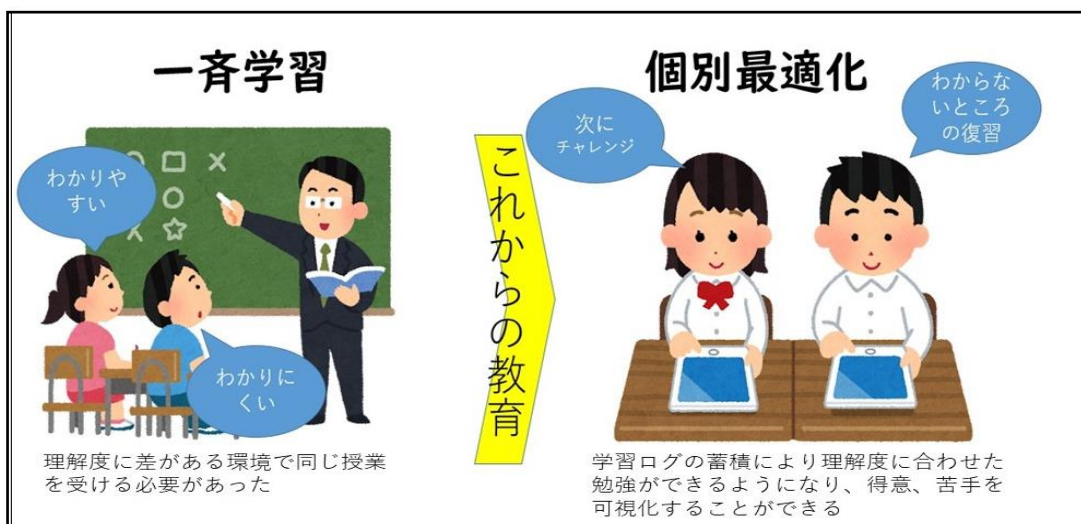
指導の個別化

支援が必要な子どもにより重点的な指導を行ったり、**特性や学習進度等に応じ**、指導方法・教材等の柔軟な提供を行ったりします。

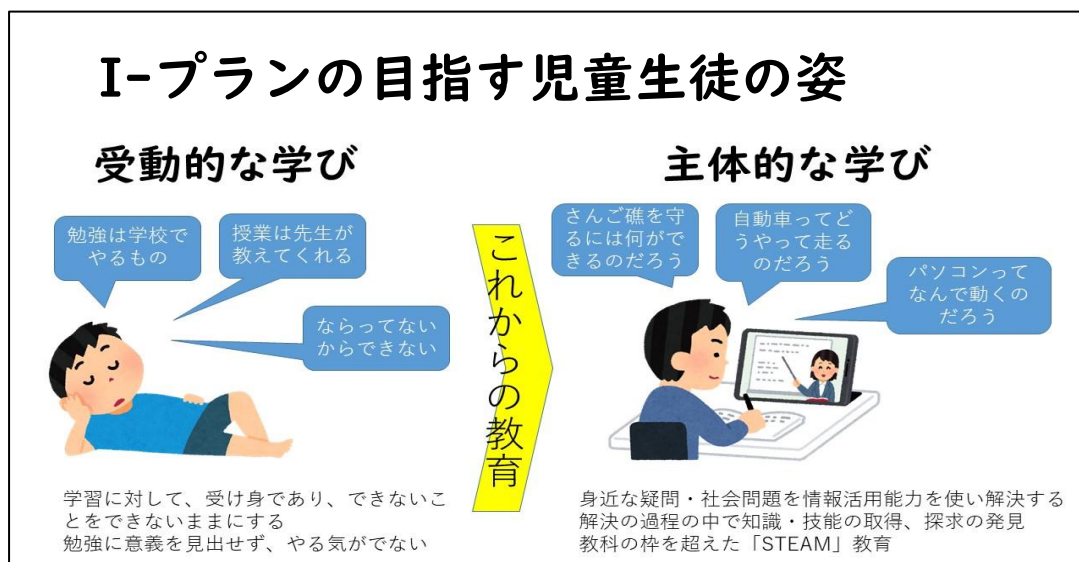
学習の個性化

子どもの興味・関心に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、**子ども自身が学習が最適となるよう調整**します。

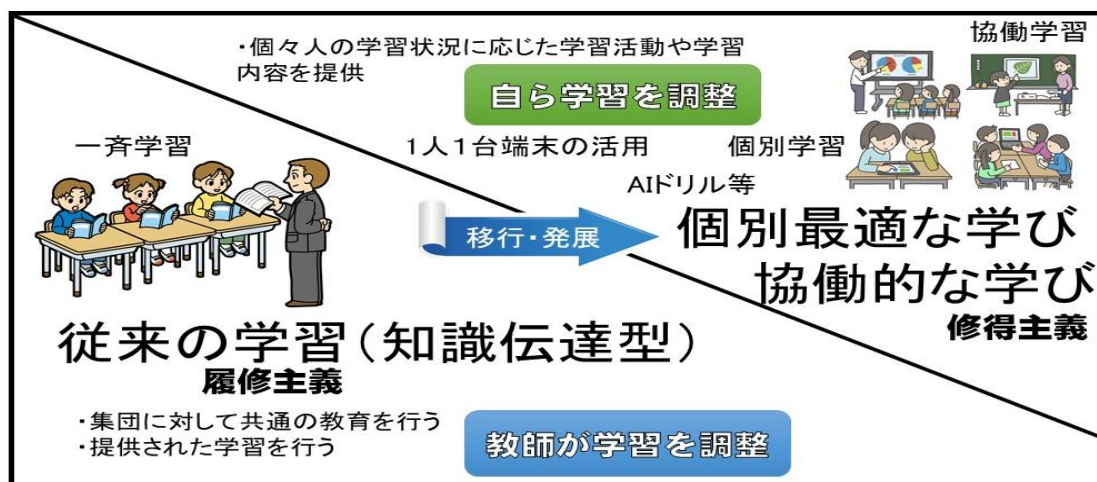
◆ 目指す姿のイメージ②



◆ 目指す姿のイメージ③



◆目指す姿のイメージ④



② 協働的な学び

探究的な学習や体験活動等を通じ、**子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら**学習を進められるよう調整します。

例えば、下記のような協働的な学びが考えられます。

- ①同じクラスの子ども同士
- ②教師と子ども
- ③同一学年の他のクラス
- ④異学年集団
- ⑤地域住民の方
- ⑥ICTの活用による空間的・時間的制約を越えた他の学校の子ども

教室ならば意見や考えを伝えあったり、異学年集団なら児童会活動等であったり、ビデオ会議システムを使いオンラインで教室同士をつないでの学習などが協働的な学びの具体例となります。

*個別最適な学び

「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整をしながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されている。

「指導の個別化」とは、支援が必要な子どもにより重点的な指導を行うことなど効果的な指導の実現を目指すこと。また、特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うこと。

「学習の個性化」とは、子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供すること。

*協働的な学び

探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する協働的な学びを充実することが重要である。「令和3年中教審答申」から一部抜粋

「令和3年中教審答申」から一部抜粋

(3) 目指すカリキュラム・マネジメント

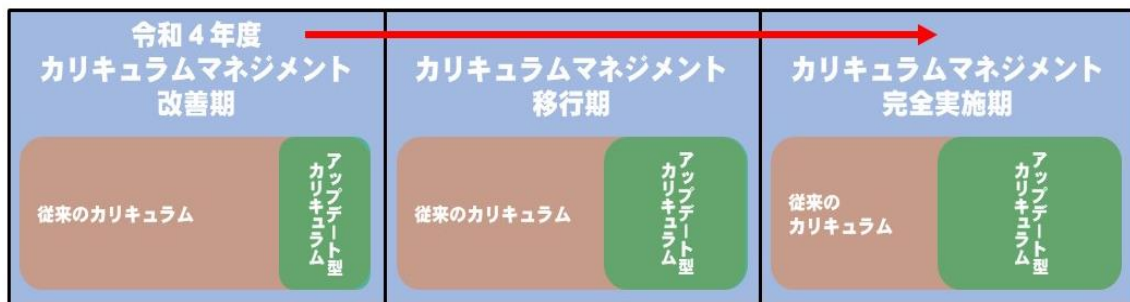
各学校の児童生徒や地域の実態を踏まえた教育課程に基づき、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことを目指し、**学校ごとの自律的なマネジメント**を実施していきます。

週時程の見直しや指導方法の工夫改善、単元指導計画の見直し、職員の適切な配置や役割分担の明確化など組織全体のマネジメントも必要となります。

これまで実施してきた従来型カリキュラムのメリットも残しつつ、新しい時代に向けた「アップデート型カリキュラム」を計画し、**その両方の良さを踏まえマネジメント**された「**ハイブリット型カリキュラム**」を計画します。

文部科学省が提唱している「**令和の日本型教育**」の構築を目指し、各学校ごとに特色ある教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントの在り方を見直します。

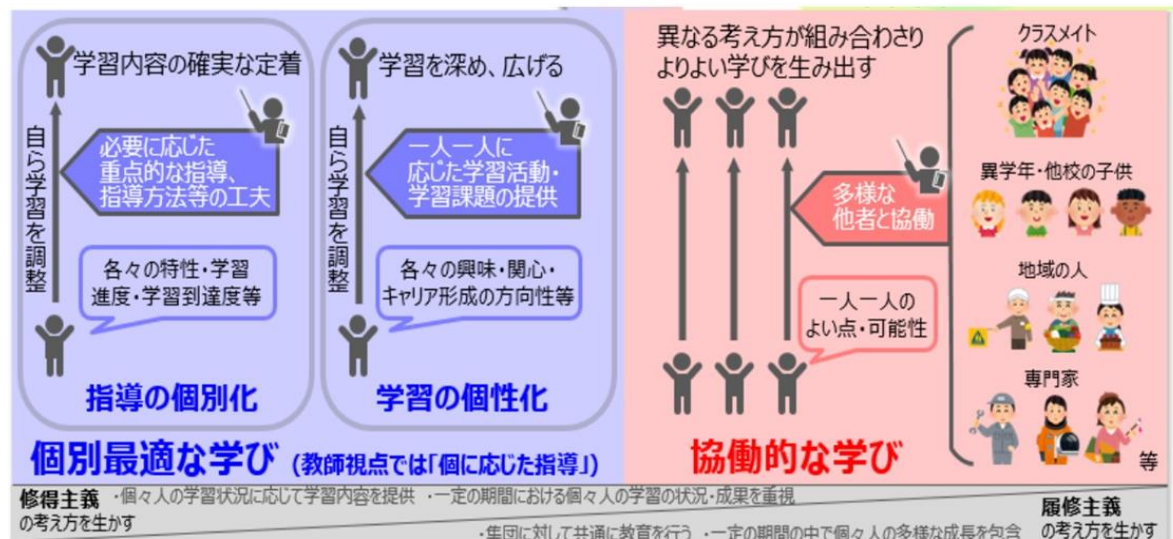
◆ 目指す姿のイメージ⑤



◆ 目指す姿のイメージ⑥



◆ 目指す姿のイメージ⑦ 「文科省（参考）資料より抜粋」



*従来型カリキュラム（履修主義）

○集団に対して共通に教育を行う

- ・ 集団での学びを重視し社会性が身につくなど教育効果は高い。

*アップデート型カリキュラム（修得主義）→個別最適な学び+協働的な学びを重視

○個々人の学習状況に応じて学習内容を提供する

- ・ 各々の特性、学習進度、学習到達度等を重視。（指導の個別化）
- ・ 各々の興味・関心やキャリア形成の方向性等を重視。（学習の個性化）

*ハイブリット型カリキュラム（履修主義+修得主義）

- ・ 指導の個別化により個々の**児童生徒の特性や学習進度等を丁寧に見取り**、その状況に応じた指導方法の工夫や教材の提供等を行う。（AIドリル等の活用）
- ・ 学習の個性化により**児童生徒の興味・関心等を生かし**探究的な学習の充実を図る。
- ・ 集団に対して教育を行う**履修主義の考え方を生かし**、「協働的な学び」により児童生徒の個性を生かしながら社会性を育む教育を充実すること。

2 学びにおける ICT の活用

(1) ICT 機器を活用した授業改善

① 学習場面に応じた ICT 機器の活用

ICT 機器の活用は、時間や距離に関わりなくいつでも、どこでもデータの蓄積や送受信ができる（時間的・空間的制約を越えること）、教師と子どもだけでなく、子ども同士の意見交流の活性化（双方向性を有すること）、多様な情報を収集し、自分の考えをまとめ表現すること（情報活用能力が身につく）が容易であることなどが特徴です。このような特徴を効果的に活用することにより、

◆子どもたちが分かりやすい授業【一斉学習】

◆一人ひとりの能力や特性に応じた学び【個別学習】

◆子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び【協働学習】

などを推進することができます。

本市においても、児童生徒の興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため、児童生徒1人1台の学習用端末を活用し【一斉学習】、【個別学習】、【協働学習】、**それぞれの学習場面を相互に組み合わせた学びの場（ハイブリット型カリキュラム）**を形成し、各教科等の指導における ICT 機器の効果的な活用を推進します。

ICT を活用した事例及び各学習場面における活用のポイントは以下のとおりです。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">一斉学習</p>	<p>【教材の提示による視覚的に分かりやすい授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板と児童生徒の端末を繋げ、画像、音声、動画などを拡大したり書き込んだりしながら提示することで、視覚的に分かりやすく伝えることができる。 ・電子黒板や児童生徒の端末に、作業手順や実験映像などを提示することにより、学習活動を焦点化することができる。 ・デジタル教科書等と併用することで、児童生徒の学習課題への理解を深めることができる。 ・オンラインによる集会、一斉授業が可能。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">個別学習</p>	<p>【子に応じた学習（個別最適化学習）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIドリルや学習アプリ等を活用し、一人一人の習熟の程度に応じた学習が可能。 ・学習履歴や学習評価を分析することで、児童生徒の不得意な分野を抽出し、個に応じた課題を重点的に復習することができる。 <p>【主体的・対話的な調べ学習・調査活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやデジタル教材を用いて、調べたい情報を収集、記録、整理、まとめ、表現することで、多様な考えに触れ他者の意見を認めるなど新たな気づきが生まれる。 ・効率のよい調査活動と多種多様な情報から主体的に情報を収集・判断する力を身につけることができる。（情報活用能力） ・Microsoft Teams の効果的な活用。 ・Microsoft Forms を活用し、考えや意見の集約・共有、アンケート調査が可能。 ・編集ソフトやプレゼンアプリ等を活用し、調査・まとめたことを編集しデータとして共有することができる。また、作品等の成果物を通じた活発な意見交流が行える。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">協働学習</p>	<p>【発表や活発な意見交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対する自分の考えを、1人1台端末でMicrosoft TeamsやForms、学習アプリ等を活用して他者と交流しながらまとめたり共有したりしながら学習を進めることができる。 ・1人1台端末で編集した資料や意見などを、電子黒板に提示し、全体で共有することで活発な意見交流がうまれる。 <p>【空間を越えた学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内での異学年との交流。 ・他校や他県とのオンラインによる交流学習が可能。 ・さまざまな業種、専門家等との交流、意見交換が可能になり、キャリア教育の促進が図れる。

◆ 目指す姿のイメージ⑧

1 時間の授業構成（例）

	教師の端末活用	児童の端末活用
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題の提示、確認 ・ 電子黒板で資料の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の確認 ・ 課題への見通し
↓		
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の送信 ・ 学習進捗状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決 ・ インターネット検索 ・ クラスノートへの入力など ・ AIドリルの活用
↓		
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えや意見の整理 ・ グループ別資料の送信 ・ 電子黒板で提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な意見の確認 ・ ペア、グループ活動で対話 ・ Teams, Formsを活用し共有
↓		
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめ ・ 次時の学習課題の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果の検証、確認 ・ まとめ、振り返りをクラスノートや Formsに入力 ・ AIドリルの活用

☛ 一斉学習と個別最適な学び・協働的な学びの組み合わせとICT端末の活用

(2) 家庭学習における ICT 機器の活用について

児童生徒 1 人 1 台の端末の配備と、ICT 環境を整備したことで「オンラインによる双方向授業」や「オンデマンドによる動画配信」など、各教科の特性に応じた活用が可能になりました。

今後、想定される家庭学習における ICT 活用について

家庭学習支援	<p>【家庭学習における児童生徒 1 人 1 台の端末利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 端末を持ち帰り、動画やデジタル教材などを用いて、授業の予習復習を個のペースで取り組める。 ・ 臨時休業等においても、学習機会が途切れることなく、学習の保障ができる。（オンライン型授業、オンデマンド視聴など） ・ 端末持ち帰りによる、学習課題への取り組みと、提出、採点が素早く行える。 ・ オフライン対応の学習アプリの導入 <p>【学校ホームページの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のホームページ等に、学習教材や活用方法を掲載し、子どもや保護者が安全かつ、有効に活用できるようにする。
--------	---

(3)臨時休業等における ICT を活用したオンライン学習の支援

- ①**ビデオ会議システム等を利用**したオンライン授業の実施や児童生徒とのコミュニケーションを図ります。

※今後、出席や授業時数カウント等については、文科省等の通知を受けて検討します。

- ②オンデマンド授業の配信

- ③**AIドリル等の学習支援ソフト**や学習者用デジタル教科書の活用

(4)端末持ち帰り（常時）に向けた取り組み

- ・児童生徒用アカウントとパスワードの設定をします。（保護者の同意）
- ・端末持ち帰りによる利用規程の周知徹底を図ります。
- ・端末は「**文房具**」として**常時活用**できる状態にします。（意識改革）

3 学校へのサポートについて

(1)教員の校務の効率化（負担軽減、子どもと向き合う時間の確保）

- ・統合型校務支援システムや校務支援システム、学習コンテンツ、アプリ等を効果的に活用し、教職員の業務の効率化、負担軽減を図り、児童生徒一人一人に向き合う時間の確保を目指すとともに**校務のデジタル化**を図ります。※ペーパーレス化

(2)ICT 活用能力の向上に向け、「ICT 活用教職員研修」を実施します。

(3)教職員向けWebサイトの開設

- ・教員向けに「授業における ICT 活用アイデア集」や「活用事例」「機器操作基本マニュアル」など、充実したWebページを開設します。

(4)学校 ICT 支援員を配置します。

(5)1人1台端末の整備とヘルプデスクを設置します。

- ・整備する端末についての質問や機器の故障、紛失等についての問い合わせに対応できるよう企業との連携を行います。

◆ 目指す姿のイメージ⑨

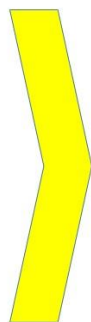
校務の効率化（配布・回収）

印刷して配布、回収、集計、
報告、データ入力・・・。

一斉配信、自動集計



印刷、配布、回収、集計、入力を児童生徒の数だけ行う必要があり、大量の印刷が必要だった



校務の効率化により、教師の児童生徒と向き合う時間が確保されます

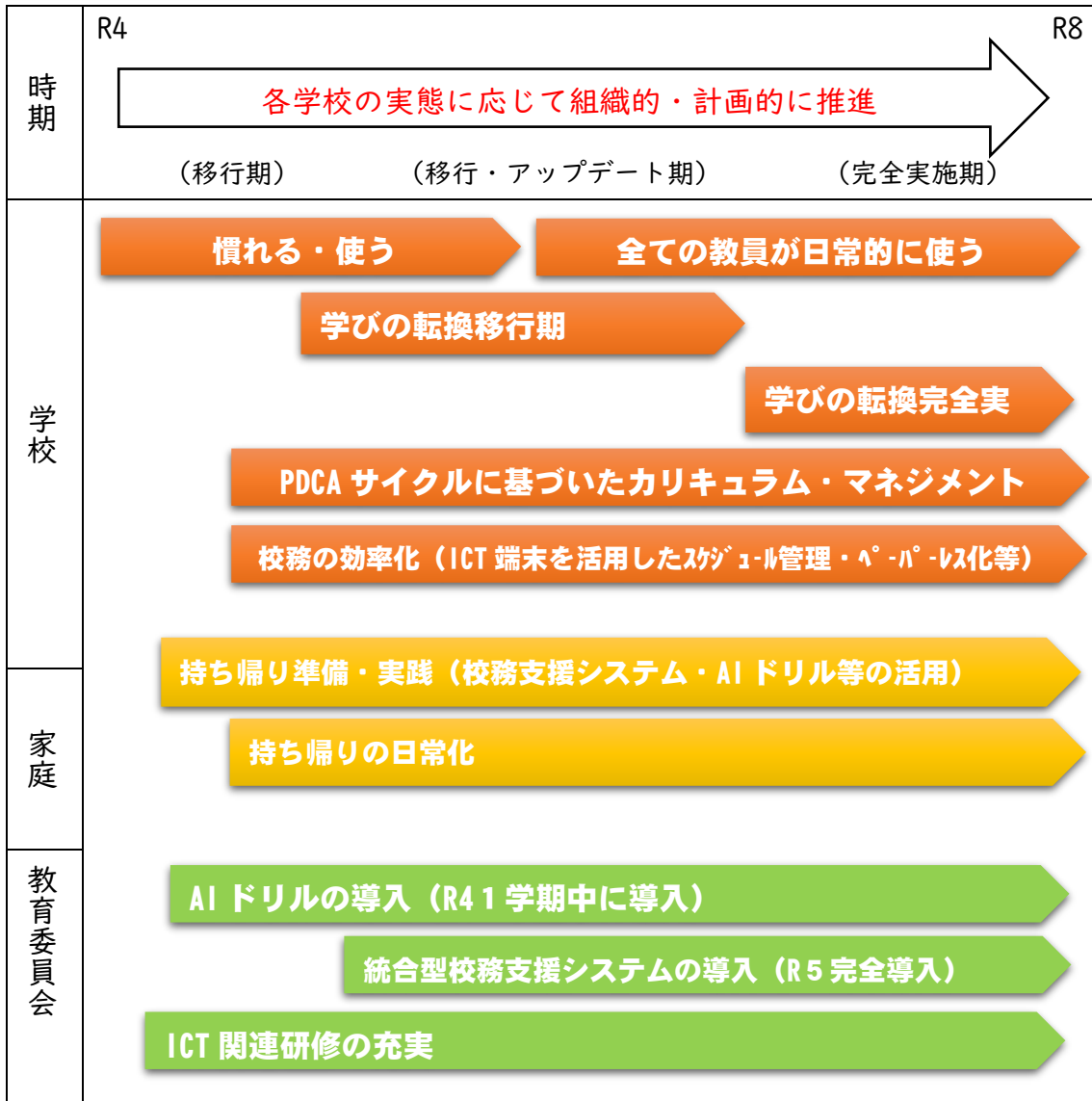
4 情報モラル教育について

情報モラル教育については、**教育活動全体を通して**行っているところですが、学習端末の整備に伴い、今まで以上に児童生徒がインターネットを活用する機会が増えてきます。そのため、情報モラルの指導や端末機器の適切な管理に加え、**ID・パスワード管理の徹底（児童生徒が責任をもって自己管理する意識を持たせること）**がさらに必要になります。

そのために、

- ① 学校全体で情報モラル教育の推進を図ります。
 - ・子ども達の実態を把握し、年間指導計画の作成、見直しを行います。
 - ・校内研修等において、教職員向けの情報モラル研修を実施するなど、指導力向上に努めます。
- ② デジタルシティズンシップ教育の推進を図ります。
- ③ 家庭における情報モラル意識の高揚を図ります。
 - ・**家庭向けリーフレット等**により、情報モラルに関する啓発を行います。
 - ・保護者向けに**情報モラル講話**を実施するなど、行政・学校・家庭が連携し安心・安全な情報社会の実現に向け「情報モラル教育」を推進していきます。

5 スケジュール



〈目標〉

「自分で考え 行動する」 自律した児童生徒の育成
 ～個別最適な学び・協働的な学びを通して～

「主体的・対話的で深い学び」の実現

石垣市 GIGA スクール構想「I-プラン」



個別最適な学び

いつでも どこでも 何度でも
 (必要な時に) (学校・家庭) (繰り返し)

◎AIドリル、教育ソフトの活用

- ・指導の個別化・学習の個性化
- ・必要に応じた重点的な指導
- ・一人一人の個性、進度に合わせた指導
- ・児童生徒が自ら学習を調整

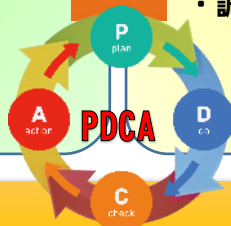
◎スタディログ(教育データ)の活用

- ・学習者の振り返り
- ・指導者の指導改善・評価

自律した学習者としての学び

一体化

学びの自律化



協働的な学び



多様な他者との協働学習

異なる考え方が組み合わせより良い
 学びを生み出す(教科を越えた学び)

◎教育ツール、ソフトの活用

- ・クラスメイト、異学年、他校、地域、
 専門家・・・
- ・活発な意見交流
- ・調査活動、集計作業の効率化

多様な他者との学び

土台となるカリキュラム・マネジメントの充実

学校 ICT 環境の整備

教育資源のデータ化・蓄積

- ・指導記録、実践例の共有
- ・教材の作成、保存、共有
- ・成績評価の効率化

教員の

働き方改革

- ・情報活用、情報共有
 による校務の効率化

校務の情報化、機器整備

- ・学習者用端末と校務用 PC の整備
- ・学校ネットワークの整備
- ・学校 ICT 支援員の配置

7 その他（資料等）

（1）ICT活用促進ルーブリック

	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
職員同士 がつながる	職員同士でつながるための、フォーム入力によるアンケート、Teams等についての研修を実施している。	校内の担当者1・2名が、フォーム入力による職員アンケートやビデオ会議システムで職員集会を実施している。	校内の各主任が、フォーム入力による職員アンケートやビデオ会議システムで職員会議等を実施している。	職員間でTeamsを活用して情報を共有している。
教師と子どもが がつながる	教師と子どもがつながるための、フォーム入力によるアンケート、Teams等についての研修を実施している。	児童生徒がTeams等で教師から課題を受け取っている。児童が端末を用いて、課題に取り組んでいる。	児童生徒がTeamsで課題を提出したり、提出された課題に教師がコメントを記入して返却したりしている。	家庭等にいる児童生徒に対して、オンライン授業を行っている。
子ども同士が がつながる	子ども同士がグループ学習でつながるための研修を実施している。	児童生徒がICT端末を活用してグループ学習を実施している。	児童生徒が各自のICT端末を活用して、話し合いを行っている。	児童生徒がTeams等の協働編集機能を活用して話し合ったり、資料を作成したりしている。
学校と家庭が がつながる	学校と家庭がつながるための、フォーム入力によるアンケート、Teams等についての研修を実施している。	学校が家庭に対して、フォーム入力によるアンケートを実施している。	学校がTeamsを使って、家庭に対して行事や説明会等のオンライン配信を実施している。	教員がTeams等を用いて、必要に応じて家庭とやりとりをしている。

沖縄県教育庁義務教育課「学校におけるICT活用推進に向けて」を一部変更して作成

（2）情報活用能力について

①基本的な操作スキル

小学校学習指導要領では、小学校を卒業する時点で身につけておくべき能力を示しているが、中学校の学習指導要領では、「コンピュータの基本的な操作」という文言が一切見られない。つまり、「**コンピュータの基本的な操作は**」は**小学校で行っておくべき内容**であって、すでに習得済みの「**コンピュータの基本的な操作**」を前提にして中学校の情報教育の内容が組み込まれていると考えてよい。九九や漢字を覚えさせないまま中学校に進学させないように、「コンピュータの基本操作」を修得させないまま中学校に送りだしてはならないことが暗に示されている。

基本的な操作スキル	1・2年	3・4年	5・6年
1 学習活動に必要とされるコンピュータやアプリケーションソフトの基本的な操作ができる	コンピュータの構成を知り、電源の投入・終了など基本的な操作を中心とした簡単な ソフトウェアの起動・実行・終了 ができる	ソフト（ワープロやプレゼンソフトなど）を組み合わせ て編集したり、印刷・出力 したりできる	文字や画像、映像など異なる電子ファイル、インターネット上の素材などを ソフトウェアに取り込んで編集する経験をもつ 、また、 収集したデータを表にまとめたりグラフ化 したりして出力できる
2 10分間に200文字程度の文字入力ができる		タッチタイプで 自分の名前や短い文章 を入力できる、また、 自分の考えを文章にまとめる ことができる	10分間に100文字～200文字程度 の文字を入力できる ※中学校では 10分間に300文字程度

3 電子ファイルを整理して適切な場所に保存できる		作成したファイルに名前を付けて指定された場所に保存できる	階層を意識してフォルダを作成し、種類や内容に応じて適切な場所に電子ファイルを整理・保存できる
4 情報機器で収集した情報を報告や発表に利用できる	自分で描いた絵やデジタルカメラで撮影した写真を使って発表する経験を持つ	写真や絵と文字を組み合わせるプレゼンテーションのスライドを作成し、調べたことや考えたことを発表できる ※中学校は収集した情報を選択・評価・編集し、報告や発表に利用できる	
5 インターネットの閲覧や電子メールの送受信ができる		複数のキーワードを組み合わせる目的のWebページを検索したり、電子メールのルールやマナーを理解して、情報交換をしたりする経験を持つ	ブラウザやメールソフトの使い方やルールやマナーを理解し、情報の検索やコミュニケーションに活用できる

②小学校における情報活用能力育成のための各教科等での学習活動

国語	<ol style="list-style-type: none"> ローマ字による日本語入力 出典や引用の適切な方法 インターネットから情報を収集しまとめる インターネットや図書館の本から情報を集め話し合う
社会	<ol style="list-style-type: none"> 資料や専門家、インターネットなどから学習に関する情報を収集する Web ページやメールによる情報発信の学習 インターネットの Web 検索で情報を集める 食料生産の盛んな地域の人々に手紙で聞いたりインターネットで調べたりする 県内の特色ある地域に関してインターネットで資料を収集する 情報化が社会にもたらす大きな影響について理解する 情報産業に従事している人や情報産業の役割を理解する 身の回りや産業の分野にも情報化が進展していることを理解する
算数	<ol style="list-style-type: none"> 収集したデータを表を用いて整理し、正確に分類する データを目的に応じてグラフ化し、どのグラフが適切か検討する 身の回りの数にかかわる映像をデジタルカメラで撮影し話し合う
理科	<ol style="list-style-type: none"> テレビや新聞、インターネットを活用して天気の変化を調べる 観察記録や実験データを表やグラフにまとめデータの整理をする インターネット上のコンテンツを活用し土地のつくりと変化を調べる 学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う

生活	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学校にはどのような場所があるか探検 2. 自分たちの通学路の安全について調べる 3. 自分たちの町にはどのような施設や人がいるのか探検する 4. 学習したことや成長したことを保護者や異学年の人と交流する
図工	<ul style="list-style-type: none"> 1. デジタル化した画像をコラージュして作品を制作する 2. レイアウトや色遣いを工夫してポスターを制作する 3. インターネット上の画像を検索しお気に入りの美術作品を紹介する
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 衣食住に関する情報を収集する 2. 購入する物の情報を収集する
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 1. ネットワークや教育機器などを活用し外国語に慣れ親しむ 2. インターネットの情報を収集したり会議の人とメールで交流したりする
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 1. 文字によるコミュニケーションは誤解を生む危険があることに気づく 2. ネットの匿名性を悪用して軽い気持ちで書き込むことの重大さに気づく 3. 相手の顔が見えないメールでのコミュニケーションの特性を知る 4. 個人情報を守る大切さに気づく 5. 知的財産権を尊重する大切さに気づく

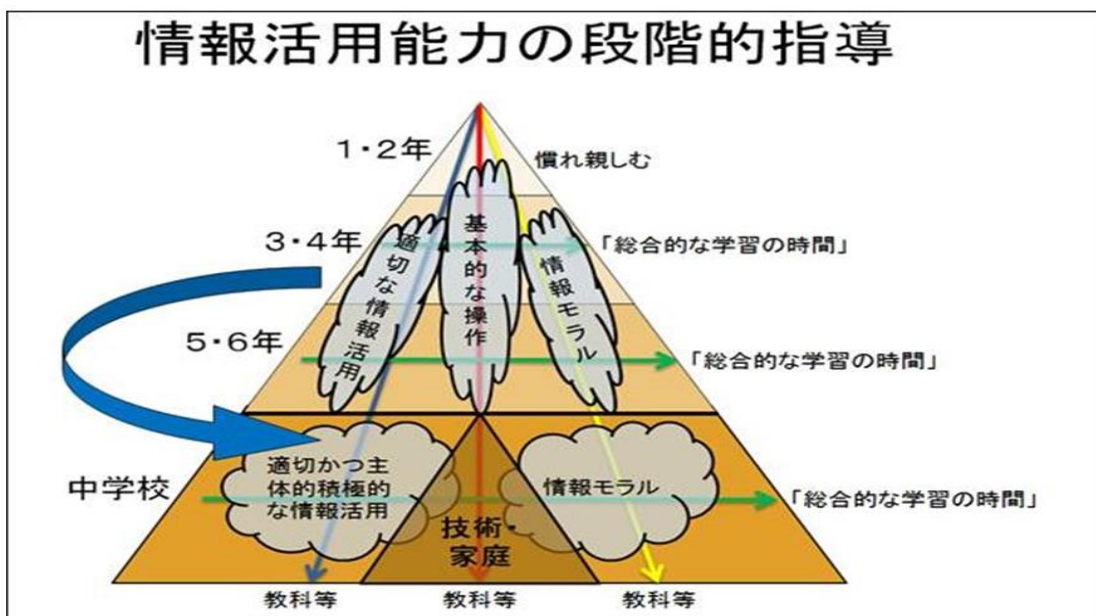
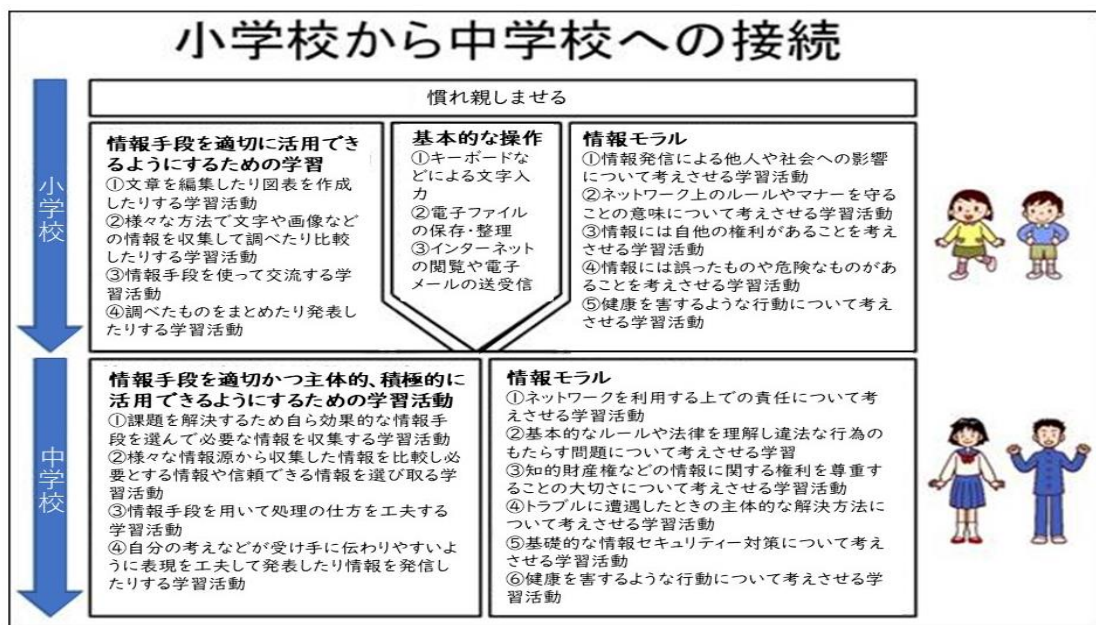
③中学校における情報活用能力育成のための各教科等での学習活動

国語	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えをまとめる活動 2. プレゼンテーション
社会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学習に関する情報の収集 2. 情報発信による学習 3. 情報の検索 4. マスメディアの働きや国民生活への影響
数学	<ul style="list-style-type: none"> 1. 資料の整理と傾向の読み取り 2. 情報の信頼性 3. 統計資料の収集 4. 遠隔地の生徒間の伝え合い
理科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 調査・探究学習 2. 観察・実験のデータ処理 3. 火山活動や地震のシミュレーション学習
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 1. 創作曲の保存 2. 自然音の収集 3. コンピュータを用いた作曲やプレゼン発表 4. 知的財産権
美術	<ul style="list-style-type: none"> 1. 映像メディアの複合

	<ul style="list-style-type: none"> 2. 造形や美術の働きについてのプレゼンテーション 3. 知的所有権の保護
技術・ 家庭	<ul style="list-style-type: none"> 1. 基本的な情報処理の仕組みやデジタル化の方法 2. 情報の処理の単位 3. 情報通信ネットワークの構成 4. 著作権や知的財産の保護 5. ルールやマナーの遵守 6. 情報技術の社会的影響力と評価 7. メディアを複合したデジタル作品の制作 8. 完成した作品の評価と改善 9. 個人情報の保護 10. 情報機器使用に関する健康への配慮 11. 計測・制御システムの理解 12. 情報処理の手順の理解とプログラムの作成 13. 家庭と子どもの成長に関する話し合い 14. 献立と食品、食事に関する調査と話し合い 15. 衣服の種類や組み合わせ、配色などの工夫 16. 住空間を想像しやすく工夫する活動 17. 身近な消費生活と環境についての情報の収集と整理
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 1. ルールや運動の仕方 2. 運動の記録による振り返り 3. 情報機器の長時間使用 4. 健康を害する有害情報
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 1. 情報機器を用いた英語の読み書き 2. 教材コンテンツを活用する学習活動 3. 電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 1. 文字によるコミュニケーションは誤解を生む危険があることに気づく 2. ネットの匿名性を悪用して悪口を書き込むことの重大さに気づく 3. 相手の顔が見えないメールでのコミュニケーションの特性を知る 4. 個人情報を保護することの大切さに気づく 5. 知的財産権を尊重することの大切さに気づく

④小学校から中学校への接続について

情報活用能力とはどのような能力でどこまで指導すればよいのか、**指導する側の教員に共有できていない**のが現状である。このようなことから学校間に温度差が生まれ、それぞれの小学校によって実施される情報教育のカリキュラムや学習内容もまちまちである。それゆえ、小学校を卒業する際に身につけている情報活用能力もまちまちで、**同じ中学校に進学するまでに大きな差がついている**こともある。このような中、一斉に中学校で**情報教育をスムーズにスタート**できるようにすることが重要である。



おわりに

これからの時代は、バージョンアップ時代と言われています。目まぐるしく変化する今、特にスマートフォンやタブレットも含めた ICT 端末の進歩は目まぐるしく、ついていくのがやっとという先生方も多いと思います。

そんな中、先生方にできることは、試行錯誤しながらアップデートをすることです。日々バージョンアップが繰り返されるインターネット環境の中で、これから学校で端末を活用していこうとするとき、最初から 100 点満点の使い方や取り組みができることはまずありません。うまくいかないこともある中で、トライしながら修正しながら活用を進めていけたらと思います。

子ども達や保護者にとっても同様に、これから様々な問題が出てくるのが予想されます。これらの問題や課題を、子ども達と一緒に考え解決していくことで、きっと最善の方法がうまれてくるはずです。

子ども達が社会参画する日を踏まえ、私たちが試行錯誤を繰り返しながら模索し、日々の教育活動において、連携して取り組んでいくことが明るい未来につながります。

学校、家庭・地域、行政が一体となり石垣市 G I G A スクール構想「I-プラン」の取り組みを推進していければと思います。